

巻頭言

びわこ成蹊スポーツ大学

スポーツ開発・支援センター長 若吉浩二

「スポーツは文化である」と21世紀になって、多くのスポーツに携わる人々が語り、特にスポーツ基本法が平成23年8月24日から施行されて以降、多様化した現代社会において、その必要性・重要性が大いに認められているところであります。

びわこ成蹊スポーツ大学は2003年に開学し、11年の月日が経ちました。開学当初より、スポーツ開発・支援センターは、社会への窓口として責務を果たしてまいりました。

「スポーツ開発・支援センター」は、本学の教育・研究活動で得られたスポーツに関する研究成果を、地域社会に還元することを目的としています。また、本学スポーツ施設を有効活用するため、ハードに加えソフト提供も併せて行うことで、当センターの設置目的の達成に向けて取り組んでいるところです。

当センターの取組事業として、以下の4点を柱としています。

自主事業：大学の専門性を活かした教室の開催など

協同事業：企業、その他機関と協同で行うスポーツに関する活動

受託事業：スポーツに関するあらゆる事業の受託・開設

地域事業：テーマは「元気作り」。地域の方々の健やかな生活を支援

具体的な取組みとしては、公開講座、産官学連携、指導者提供、クラブ設立、プログラム提供、健康相談、調査・研究があり、当センターは、開学当初から現在まで、地域社会との連携における中心的役割を担ってきました。

今年度も、公開講座におきましては、ランニング教室、水中ウォーキング教室、水泳教室、ストックウォーキング教室等の9講座を開催しました。また、幼児・児童を対象としたびわスポキッズプログラムの巡回指導、さらには滋賀県下でのスポーツフェスティバルの開催等、精力的に活動を行ってきました。

特に今年度は、文部科学省から委託事業として大津市が受託した「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業（大学のスポーツ資源を活用した地域コミュニティ活性化促進事業）」へ、企画内容から全面的に協力し、大学の施設と教員及び学生・大学院生指導者の提供を行いました。大津市幼稚園32園への巡回指導や本学で開催した未来アスリート塾は、10年後開催予定の2024年びわ湖国体に活躍してくれるアスリートに夢を託す取り組みであり、我々自身、大いに楽しみであります。

このようにスポーツの実践的な教育と研究を通じて、これからも、しっかりと地域に貢献していきたいと考えております。